

本のひろば

出会い・人

イエスさまに会いたくて 古本みさ

本・批評と紹介

宮本久雄、武田なほみ 編著

信とは何か 黒鳥偉作

鍋谷由美子 著

賀川ハルものがたり 加山久夫

W・ブルグeman 著／鎌野直人 訳

預言者の想像力 左近 豊

G.W.レイスロップ 著／平岡仁子 編訳

二十一世紀の礼拝 越川弘英

稲垣久和 著

改憲問題とキリスト教 安部圭介

ケネス・リーチ 著／関 澄子、関 正勝 訳

魂の同伴者 窪寺俊之

J.J.フラーフラント 著／関谷 登 訳

市場倫理とキリスト教倫理 久世 了

皆川達夫 著

洋楽渡来考 再論 樋口隆一

宮田光雄 著

私の聖書物語 笠原義久

近藤勝彦 著

贖罪論とその周辺 倉松 功

既刊案内

書店案内

8 AUGUST
2014



神の恵みから
信仰が始まる



アウグスティヌス 神学著作集

アウグスティヌス

金子晴勇、小池三郎訳

「キリスト教の第二の創始者」(ヒエロニムス)と呼ばれ、西洋思想に広く影響を与えたアウグスティヌス。彼の完成期の神学思想は、ペラギウス派やドナトゥス派を論駁することによって形成された。本書にはその論点ともなった恩恵論についての著作を中心に収録。アウグスティヌスの神学思想を理解する上で不可欠の書。

● A5判・752頁・本体6,800円

好評発売中

- 『はじめてのアウグスティヌス』 ● 本体2,000円
- 『はじめてのルター』 ● 本体1,900円
- 『はじめてのウエズレー』 ● 本体1,900円
- 『はじめてのジョン・エドワーズ』 ● 本体1,800円
- 『はじめてのキング牧師』 ● 本体1,900円

20世紀の古典的名著として読み継がれる『服従』や『共に生きる生活』、そして『倫理』や『獄中書簡集』などを著すと同時に、反ナチ抵抗運動のメンバーとしてヒトラー暗殺計画に加わり、第二次大戦末期に強制収容所で殉教の死を遂げた神学者ボンヘッファー。彼が存在を賭けて取り組んだ神学的冒険の全貌を、ユニークなイラストとともに辿る。



はじめてのボンヘッファー S・R・ヘインズ、L・B・ヘイル 船本弘毅訳

● 四六判・224頁・本体1,800円

はじめてのボンヘッファー

ふたりのエアリエル

ノエル・ストレット・フィールド

中村妙子訳



第2次世界大戦下のロンドンで、演劇の家系に生まれた子どもたちが繰り広げる物語。自分の将来の道を模索する少女ソレルが、従姉妹との競演の果てにつかんだ夢とは……!

● 四六判・240頁・本体1,400円

歌集 いのちの四季に

吾妻國年



戦災孤児となった寂寥さやキリスト者としての日々、文学への想いなど魂に刻まれた足跡をめぐる。思索を言葉に託し、独自の調べを奏でる詩歌とエッセイ。

● 四六判・290頁・本体1,500円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549

本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館



出合い・本・人

イエスさまに会いたくて——古本みさ

物心ついた頃から四〇歳を過ぎた今までずっと、イエスさまに会いたくなったら手にとる本がある。一九七四年に日本聖書協会から発行され、現在は残念ながら絶版となったオランダ人絵本作家 Kees de Kort による『絵本聖書』シリーズである。高校留学のため単身米国へ渡ったときには、その中でもいちばんのお気に入り一冊をスーツケースに入れた。一年後の夏休みに帰国し、久々にそのシリーズを読もうとしたら、ない。牧師であった父の書齋はさながらキリスト教書店のようであったが、どの棚にも見つけられない。母に聞くと、「あんな子どもの絵本、そうくんにあげちゃったわよ」とのことだった。わたしは当時十代後半だったと思うのだが、まるで三歳のそうくんと同じ年であるかのように大声をあげて泣いた。そしてほんの少しだけ大げさに言った。「あの本たちは、世界中の何よりも大切だったのよお！」母はおろおろして、すぐさまそうくんの母親に電話をした。「ごめんささいね、みさが大粒の涙を流してわんわん泣くもので。返してもらっていいかしら」。そのときはさすがに恥ずかしくなったが、数日後にそのシリーズ全巻がわたしの手に戻ってきたときの感激は一生忘れられない。わたしがはじめてイエスさまに出会ったときの胸の高鳴り、そしてその後にくる、ふかふかの毛布に包まれるような

安堵感が体じゅうによみがえった。まるでクリスマスを過ごしために久しぶりに家族のもとへ戻ったときのようにな。

この絵本シリーズの何がどういいのか、なかなか言葉で表すのは難しい。この世離れた衝撃的な色使い、読み手の心を見透かすような登場人物の黒々とした目、四頭身のアンバランスなプロポーション……その幻想的な絵は、幼い頃からのわたしを聖書の世界にぐいぐいと引き込み、同時に聖書の世界観を何かあるごとくにわたしの人生に食い込ませるといふしぎな力を持っていた。

今日もまたそのシリーズの一冊を手に取り、ふと思う。説教もこの絵本と良く似ているのでないだろうか。聖書の世界と現実の世界をつなぐ牧師の説教を通して、主日礼拝に来た者はイエスさまに出会う。そして、イエスさまはわたしたちが教会の門を出た後もずっと離れず共におられ、それぞれの人生に生きてくださる。わたしがこの本と出会って主が共にいてくださることを知ったように、一人でも多くの方がイエスさまと出会えるよう、説教と呼ばれる写実的でありながらも幻想的な絵を描き続けていきたい。

(ふるもと・みさ 平安女学院中学校高等学校チャプレン、日本聖公会京都教区執事)

他者への索引と「信」への拓き
宮本久雄・武田なほみ編著

信とは何か

現代における「いのち」の泉
二〇一三年上智大学神学部夏期神学講習会講演集



黒鳥偉作

「我は汝なり」(三六頁)——宮本久雄氏の思想へいざなう索引である。この言葉に対する「信」から他者との出会いの地平は広がっていく。カトリック教会の「信仰年」に第六十回を記念して行われた夏期神学講習会をもとに本書はまとめられた。武田なほみ氏がまえがきで述べるように、本書は多様な価値観との対話を重要視している。神学や哲学、諸宗教によって奏でられた言葉は一方通行ではなく、現代の「信」への架け橋をかけようと試みられている。

まず、宮本氏の論文でひらかれる第I部は、本書の力点を明らかにする。すなわち、ニヒリズムの裏返しである自己救済は、「信」のむすびやひらきになりえないということである。続いて、ホアン・アイダル氏は罪を意識させ、自己ではなく他者からはじまる救いをE・レヴィナスの倫理から提示する。さらに、鈴木順子氏は、シモーン・ヴェイユの人生を俯瞰し、その共苦に貫かれた思想から、他者を生かす「犠牲の神」に「信」の出発点を見出す。第II部はキリスト教神学における「信」の形成について言及する。佐久間勲氏は旧約聖書の信仰の諸相か

ら神への畏れを、川中仁氏は新約聖書の構造的なキリストへの「信」を論じる。具正謨氏は、キリスト教信仰を育てる祈り、共同体の公の祈りである典礼を取り上げ、とりなしの祈りが「信」をもたらすと述べる。信仰の歴史が示された後、第三部では諸宗教における「信」の広がりを見る。赤堀雅幸氏はムスリムの共同体を支える信仰と行事、シリル・ヴェリヤト氏はヒンドゥー教における宗教間対話の土壌について、高山貞美氏はブッダと親鸞に共通する苦の体験と今を照らす「信」を紹介する。それぞれの諸相にはキリスト教信仰との接点を示されている。講演者の意図する射程は長く、十分な奥行きがある。

ところで、限らない欲望を肯定する文明社会において、他者は消費される「物」になりつつある。人は存在の軽さに耐えられず、極端な二者択一へと容易に駆り立てられる。片山はるひ氏は、信仰の闇と光を説き、「信」は夜にこそ目覚めていなければならず、誰かに強制されるものではないと説く。また、晴佐久昌英氏は教会の普遍性に重きを置きつつ、人の救いの境界と、境目を引くことができない天の救いを強調する。こうして

第IV部において、執筆者たちは「信」の底知れない深さを述べ、神の国とのつながりを改めて問いなおす。すると、シンポジウムにおいてフロアから率直な質問が投げかけられる——「信仰とはどのようなものか。なるほど、多角的な視野が要求される時代に、過信は危うく、権威主義は自由と相反する。「真実の信に対する不信の闇は人の心をおいづくしていくであろう」(三三三頁)という宮本氏の説く現実是否定しがたい。何を正しく信じるべきか、確信への道はあまりに遠い。

しかし、小林稔氏がエッセイで語る、詩編のようななりふり構わぬ祈りには、神を前にしたありのままの人間の姿がある。さらに、小林氏による命を超えた神への信頼は、死者を担う者が唱える祈りであろう。この二つの祈りによって、私たちは冒頭の索引に必ず引き戻される。すなわち、神への方向と、自己から他者へ向かう問いが重なり合うとき、「信」への足掛かりは明らかとなる。神は自己ではなく、他者と共にある方なの

である。それゆえ、主を愛し、隣人を愛する教えは、現代においても普遍的な意味を与えるのであり、実践的でなければならぬのである。

それでは、「信」の方向を指し示す現代のコンパスはどのように提示されるのか。石井智恵美氏は、押田成人による地下水の思想をくみ出し、他者への誠実さと神への謙遜を掘り起こす。シンポジウムの結びに宮本氏は、「わたしはあなた」という神の愛に従ったイエスの生き方の再考を求める。他者の物語を丁寧に紡いでいく作業にこそ、果てしない高さ、深さ、奥行きのある「信」をひらくための律速段階があるにちがいない。つまり、本書は失われた他者の記憶を呼び覚ます合図であり、読者による新たなひらきを歓迎しているのである。

(くろとり・いさく＝相模原赤十字病院医師、日本基督教団戸塚教会補教師)
(四六判・三四四頁・本体一八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

並木浩一著作集3

旧約聖書の水脈

全3巻 完結!!



モーセの生涯や預言者たちの批判と幻、雅歌が伝える愛と喜びなどに注目し、聖書を貫く「水脈」を追う。旧約聖書は現代に意味を持つのか。
A5判・350頁・4,320円

- 好評発売中
- 1 ヨブ記の全体像
A5判・338頁・4,320円
 - 2 批評としての旧約学
A5判・350頁・4,320円

マタイ福音書を読もう2 正義と平和の口づけ

松本敏之



マタイ福音書の通説を導く全3巻シリーズ。第2巻はガリラヤ周辺におけるイエスの活動と言葉を描く。
四六判・234頁・1,944円

- シリーズ案内
- 1 一步を踏み出す
好評発売中 1,944円
 - 3 その名はイエス・キリスト
2015年2月刊行予定

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

豊彦とともに贖罪愛を生きぬいた生涯
鍋谷由美子著

賀川ハルものがたり



加山久夫

賀川豊彦はスラムでの救霊・救貧活動に端を発し、労働運動、農民運動、協同組合運動など多方面にわたる社会運動の先駆的指導者として、明治末期から昭和前半にかけて広く活躍した。賀川ハルの働きはその陰で、夫のよき協力者としての「内助の功」として見られがちであった。それはあながち間違いでなかったが、本書は、「その陰」からハルを解放することによって、「神の愛」に依ってひたすらに生きぬいた彼女の人生をクローズアップしている。

ハルは優れた資質をもちながら、家庭の事情で、少女時代から女中奉公や女工生活をし、早くから労働者の苦しみや悲しみを身をもって知った。しかし、幸いにも、彼女の場合、父方の伯父が神戸に開設した聖書印刷会社での女工生活であり、毎週勤務員のためのキリスト教の時間もあった。

あるとき、そのキリスト教の時間に「神の愛」について賀川豊彦が熱く語るのを聞き、それまでキリスト教に心を閉ざしていたハルの心は開かれる。その後、彼女は賀川の伝道所に通うようになり、信仰へと導かれる。また、ボランティアとして賀

川の働きを助けるようになる。こうして、ハルは豊彦のよき理解者・協力者となり、結婚。

こう一口で言ってしまうと、まるで甘いメロドラマのように見えるが、そのような生易しいものではなかった。賀川は街に住む人々に「みなさんの女中をお嫁にもらいました」とハルを紹介し、ハルはそれからの日々、豊彦の期待に懸命に応える。病、貧困、不衛生、犯罪のはびこる生活環境のなかで、ハルは豊彦とともに神と隣人に仕える。その結果、ハルはトラコーマの感染により片方の視力を失い、豊彦も生涯眼病に苦しむ。

豊彦が米国留学の機会を得たので、その間（一九一四年—七年）、ハルは横浜の共立女子神学校で学ぶ。

その後、二人は神戸での活動に戻るのであるが、賀川の社会運動の働きは労働運動を皮切りに拡がっていき、ベストセラーとなる自伝小説『死線を越えて』の出版後、執筆や講演活動などでますます多忙を極める。関東大震災の救援活動後は東京を拠点とするようになるが、形こそ異なっても、賀川の働きは神戸での働きの延長線上にあり、それゆえ、その後の働きの原点

は神戸での働きにあったと言える。

豊彦は一九六〇年、七十二歳の生涯を閉じるが、同い年のハルは九四歳の長寿を与えられ、夫君が残した多くの社会事業の責任を継承した。それは単なる「継承」という以上のものである。ハルは、神戸時代の路傍伝道や、「覚醒婦人協会」会長としての働きなどをおして自らのうちに蓄積していった経験を開花させ、『貧民窟物語』『女中奉公と女工生活』などの著書や文筆活動に結実させる。その文章は端正、講演も明晰であり、多忙な働きの中にも泰然自若としていたと言ふ。そこには賀川豊彦から学びとってきたことも少なくないが、彼女自身の経験や思想があったことを忘れてはならない。

本書の著者鍋谷由美子氏はしなやかな文章で、ハルの人・信仰・働きを生き生きと描いている。「ハルの著作の中には『贖罪愛』という言葉は出てこない。しかしハルの行動を見る時、ハルが尊敬し賛同した豊彦の思想を理解していたこと、豊彦を

凌駕するとも言える贖罪愛に突き動かされたことがわかる。神が人類の罪を担われたことを、ハルは十字架の恵みを通して知り、さらに、隣人と痛みを分かち合う関係へと入れられた」と述べ、「地面の下深く根を伸ばし、踏まれても踏まれても負わずに立ち上がり、嵐や風にも倒れそうでも倒れないたんぽぽの生き方」をハルに見る。

本書のテーマ「賀川ハル」は本来、著者が修士論文として執筆したものであった。収集した資料を用いて、一般読者のために改めて平易に書き下ろした。したがって、本書を再読することによって、さらに賀川ハルの滋味豊かな「隠し味」が見えるはずである。

(かやま・ひさお)明治学院大学名誉教授、前賀川豊彦記念松沢資料館館長 (四六判・一六〇頁・本体一五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

「神学」75号

2013年12月25日発行

「神学」は半世紀以上も読み継がれた神学専門誌です！

特集テーマ「ことばと説教」
—山口隆康教授献呈論文集—

説教のことばと法のことば…大住雄一
ことばは解釈されなければならない
……………小友 聡
気のない人への説教…芳賀 力
「神について語る」ことは、なぜ
可能なのか……………神代真砂実
説教黙想論……………山口隆康
説教における説話……………朴 憲郁
神を語る言葉……………小泉 健
言葉の使い方……………東方敬信
説教のことばと説教者の生…洛雲海
近代におけるキリスト教的语言
行為の意味と意義……………上田 彰
(その他自由研究3本修論要約1本掲載)
A5判・361頁・定価3,700円＋税

「伝道と神学」4号

2014年3月25日発行

「伝道と神学」は東神大と教会を結び
伝道実践と神学の雑誌です！

山口隆康教授最終講義

「旧説教学」から「新説教学」への展開
……………山口隆康

日本伝道協議会全国大会記録

現代社会に伝道する牧師…芳賀 力
改訂宣教基礎理論について…宮本義弘

教職セミナー発題

主題講演：伝道する教会の説教…山口隆康
発題：説教を可能にする言葉…朴 憲郁
発題：力ある説教を求めて…小泉 健
(その他研究論文7本、博士課程後期学生と
前期修了生の諸研究も掲載)

A5判・386頁・定価1,575円(税込)

お買い求めは
全国キリスト教書店または
本学へ直接お申し込みください
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-30
東京神学大学 総務課
Tel 0422-32-4185 Fax 0422-33-0667
E-mail soumu02@tuts.ac.jp

時代を見る眼差しと教会形成への指標を与える
W・ブルッゲマン著
鎌野直人訳

預言者の想像力
現実を突き破る嘆きと希望



左近 豊

現代を代表する神学者の一人であり、現役を退いてなお健康衰えず、著書を年々増し加えているW・ブルッゲマン初期の代表作であり、初版から数えて三五年、改訂を重ねながら絶え間なく読み継がれ、その主張は色あせることがないばかりか、一層輝きを増しながら多くの新しい読者を獲得し続け、魅了して止まない。ブルッゲマンの名を世に広く知らしめた本書は、聖書学に留まらず、説教や実践神学の分野でも評価が高く、教会の聖書研究の格好のテキストとして今日も北米の多くの教会で愛用されており、長らく邦訳が待たれていたものである。旧約聖書への発想を大きく変えさせ、旧約預言者が現代に對峙して鋭い切り口で語っているかのように、その言葉を新たに聴き取る耳を、さらに預言者の想像力をもって今という時代を見る眼差しを備えさせる。一旦この想像の翼を手にしたものは、旧約預言を読む毎に自在に古典と現代を往還しながら、溢れるばかりに語りかけられるみ言葉の力に打たれつつ恵みを語り継ぐものとされる。ブルッゲマン自身の生涯がそれを証している。翻訳は原著の本来の意図を一層際立たせることがある。邦訳

に付された独自の副題「現実を突き破る嘆きと希望」は秀逸。特に東日本大震災以後を生きる私たちにとって、預言者の嘆きに注目する本書の神髄が顕在化されたことの意義は大きい。エレミヤによって捕囚前夜の社会に向けて語られた言葉が「想像力」を喚起し、「嘆き」や悲嘆を忘却・排除する風潮に對して「悲嘆だけが喜びへと導き、終わりを受け入れてはじめて新しい始まりが起こる（二二五頁）ことに気づかせ、悲しむ者だけが慰められること（マタイ五・四）を知っておられた主イエスを指し示しながら、今、ここに召された説教者の黙想を旧約預言の深みへと沈潜させつつ、力強い現代へのメッセージへと飛翔させることだろう。

この書は、「社会に支配的な」文化が生み出す意識と観点に對抗し、その代替となる意識と観点を、育て、養い、人々の間で呼び覚ますことが、預言者に与えられた務め」であること（四〇頁）を具体的な例を挙げて論じてゆく。

特にソロモン時代を特徴づける「王族意識」が生み出した繁栄と消費経済の発展に伴う「飽満の経済」、そして飽食による

不公正や周縁化された人々への嫉妬を強いる「抑圧の政治」、そして神の自由と超越を忌避する「親近性の宗教」に對抗する預言者の想像力について語る第二、第三章は、その独創的で鮮やかな切り口にページを繰る手が止まらなくなる。それでいて、時折思わず思考が活性化し、時を忘れて黙想に導かれるのは、預言者の想像力のなせる業であろうか。

社会倫理と福音主義、社会正義と教会正典の密接な関わり合いに聖書の根拠を示している点でも、現代社会における教会形成に一つの有効な指標を与える。聖書的アイデンティティーを保持する共同体、聖餐を中心とする教会こそが、真に社会変革を担う媒体となりうることを論じている点も示唆に富んでいる。本書前半で語られた旧約預言者による「批判とパトス」、そのもたらす「わざと驚き」は後半部で主イエスの「批判とパトス」（第五章）、「わざと驚き」（第六章）へと展開してゆく。旧約聖書を貫く預言者の想像力の救済史的躍動を味わうことに

なる。そして最終章で、現代において、この想像力によって生み出されたいくつかの教会による社会活動の実践例の紹介がなされて閉じられる。ただし想像の翼は閉じられることなく風をはらんで更なる作品へと結実してゆき、二〇一二年、ブルッゲマンが預言者の説教について論じた『預言者の想像力の実践——解き放つ言葉の説教』（未邦訳）が生み出されている。

今回、翻訳の労をとられた鎌野直人先生は、コヘレトに関する研究で学位を取得され、その優れた研究はWalter de Gruyter社から出版されている。現在は神戸で神学教育と牧会に当たられている。ブルッゲマン神学への理解は深く、読む者を引き込んで離さない英語の語り口を、翻訳であることを忘れさせる流暢さと読みやすさをもって訳出されたことに、一読者として感謝したい。

（さこん）とむ 日本基督教団美竹教会牧師
（四六判・二七二頁・本体二八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



宗教史学論叢18

夢と幻視の宗教史

【下巻】

河東 仁 編

●A5判上製 本体4,000円＋税

河東 仁 日本の昔話と夢／
阿部 珠理 ヴィジョンを求めて泣く／
渡辺 和子 『ギルガメッシュ叙事詩』における夢とその周辺／
佐々木 光俊 スクレピオス信仰／
宮内 ふじ乃 初期写本挿絵に描かれた創世記の夢／
細田 あや子 ハインリヒ・ゾイゼのヴィジョン／
他3篇を収録。

ISBN978-4-86376-037-0

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

礼拝を考える上での問題を提起する

G・W・レイスロップ著
平岡仁子編訳

二十一世紀の礼拝 文化との出会い



越川弘英

本書は日本福音ルーテル教会の式文委員会の招きにより二〇一一年に來日した米國ルーテル派の礼拝学者レイスロップ氏の講演、説教などをまとめた著作である。近年、同教会では式文改訂作業が進行中であると仄聞するが、本書はその中から生まれた成果のひとつということであろう。本文の構成は、「序文」を別として、「二十一世紀の礼拝——文化との出会い」、「礼拝の中心」、「礼拝のオルド (Ordo)」、「オルド——東洋と西洋の対話」、「司式とは」、「保護と批判・ルーターの遺産」、「説教」(二編) という項目から成っている。編訳者によると、「オルド——東洋と西洋の対話」をのぞき、すべて独立した講演及び説教として行われたものであるという。

最初の講演は本書の表題ともなっているもので、今後ますます重要性を帯びていくと思われる礼拝と文化の関係について論じている。明治期以来、日本における礼拝をしてキリスト教と言えば、日本的な伝統文化に対して対決的な姿勢をもって臨むのが通例であった。近年では「土着化論」から始まって「文化脈化」^{エンカルケレシオン}など、文化と礼拝をめぐる考察もなされるように

なってきたとはいえ、まだまだ緒に就いたばかりと言ってもよい状況である。今日の礼拝の刷新においてこうした課題が避けて通れぬテーマであることを語る著者の発言を私たちはきちんと受けとめなければならぬだろう。

第二講演は、文化という多様で可変的な現実との出会いを意識すればするほど、それと同時に礼拝の本質や原点を再確認することが必然となることについて論じている。

この議論を受けて第三講演は礼拝の本質を表現する「オルド」(順序を意味する「オーダー」のこと) について、二世紀のユスティノスにまで遡って解説する。著者は古典的聖書のオルドを示しつつ、「日本における礼拝刷新は(中略)常にオルドとその根拠をもう一度学び、新たな明瞭さにおいて私たちの中でそれを明らかにさせることです」(六七頁) と結論づけている。

この後に措かれた「オルド——東洋と西洋の対話」は著者と平岡仁子氏の間に行われた実際の対話であるという。私が目を引かれたのは、対話の末尾のほうで著者が「そして多分、

「日本ミサ」の展開が、今起こり始めています」(八四頁) と述べている一文である。この発言の趣旨や意図を詳述して欲しかったのだが、示唆的なひと言に終わっていたのが残念だった。

第四講演は礼拝の司式について考察する。著者は礼拝に責任を負う司式者がオルドや司式の際の振る舞いを身体にまで「刻印」することの大切さを説き、「私は、自分が司式をする時、自分のこの体を用いることを考えました」(九五頁) と述べている。この指摘は私がかつて福音ルーテル教会で司式を経験させていただいた時の実感とも重なる部分があって、大いに納得するところがあった。

最後の講演は、礼拝の理解と実践に関してルーターが残した「遺産」について論じる。著者はルーターは礼拝の伝統に対する尊重(「保護」と「批判」という、二つの面を共に重んじていた)と指摘し、さらに興味深いことに、ルーター派にあっては「(礼拝の) 改革は強いられなければならない」(二〇六頁)、「典礼

による束縛への強制の拒否」(二〇七頁) という原理が存在すると述べている。この第五講演はルーター派の礼拝論を扱っているのだが、そうした特定の教派だけでなく、広くキリスト教会の礼拝を考える上で共通するいくつもの問題提起となるものを示唆しており、評者としてもっとも感銘を受けた部分であった。

最後になるが、以上述べてきた内容の評価とは別に、本書の訳文に関しては残念ながら苦言を呈しておかねばならない。直訳調というのか、総じて生硬な印象が否めず、誤字・脱字等を別にしても、文章表現や訳語の中に日本語としてこなれていないものや分かりにくいものが何度も出てくる。何か事情があったのかも知れないが、読者のことを考えるなら、より綿密な校正や推敲がなされて然るべきであったと思う。

(こしかわ・ひろひで) 同志社大学キリスト教文化センター副所長・教授
(四六判・二二八頁・本体一五〇〇円+税・教文館)



〈声〉をそだてる

歌いたい人のためのボイスワーク

栗林文雄

Fumio Kuribayashi



よく通り、柔らかく響く 〈声〉のそだて方を伝授

教会の聖歌隊
会衆の讚美

(ひそかに歌に悩んでいる牧師)

力強い〈声〉で語りかけたい牧師
〈声〉を使う教師・サラリーマン
歌は「苦手」と思っている
あなたに!

A5 変型判

定価 [本体 1,600 + 税] 円
ISBN978-4-86325-066-6



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

強靱な市民社会の構築
稲垣久和著

改憲問題とキリスト教



安部圭介

憲法改正については夥しい数の文献があるが、知的な奥深さと読みやすさを備えた本は意外に少ない。キリスト教哲学を基礎としつつ親しみやすい文体で改憲問題を語る本書は、その意味で特徴的であり、キリスト者にとって貴重な一冊といえる。

ところが、現在、本当の意味で改憲に関心を持っている国民は少数である。政治の場での論戦の過熱とは裏腹に、社会の側には無関心が蔓延している。評者は最近、知人に次のように問いかけられ、絶句したことがある。

「憲法改正に賛成ですか、反対ですかという世論調査の結果がときどき新聞に載るけど、変えたい条文があるなら、専門家で話し合って、適当に変えたらいいんじゃないですか？」

憲法に対する市民の認識の平均値は、案外、このあたりにあるのではないだろうか。それはなぜ間違った態度なのか。本書を通じて浮かび上がるのは、この「無責任体質」が現代日本の課題の本質に関わっているという事実である。

日本の歴史や文化の特殊性を強調し、普遍的な民主主義の原理に否定的な態度を示す自民党の憲法改正草案は、人権を境界

づける「公共の福祉」（日本国憲法一三条）に代えて「公益及び公の秩序」という概念を導入する。「公共の福祉」は「人々の福祉」を意味するが、「公益及び公の秩序」は「お上の秩序」にはかならない。人権を「公益及び公の秩序」によって制約する自民党草案は、国のかたちを大きく変えてしまう危険をはらむ。ここに明治憲法への回帰願望を見る著者の問題意識は鋭い。日本だけが「反動的な一九世紀的な国家主義に戻っていくわけには断じていきません」という主張は、自民党草案の本質を喝破している点で重要である。

公と私の二項対立から「公、私、公共の三元論」へ。本書で示唆されているのは、市民が受身的に公に従う「おまかせ民主主義」とも、「官から民へ」を無条件に肯定する新自由主義とも異なる第三の可能性である。そこでは、市民が各自の関心に応じて中間集団を立ち上げ、国境を越えて連帯しつつ、それぞれの責任——神から信託された「地を管理する」責任——を果たすことが提唱されている。市民どうしが人格的につながり、対話によって理解し合い、生の充実を図る社会へ。著者の掲げ

る「活憲」の中心には、自治に参加し、自発的なモラルの実践を通じて憲法を活かす市民のイメージがある。市民の「自己鍛錬」が求められる点で実現へのハードルは低くないが、現行憲法の潜在力を引き出す試みとして、注目すべき構想といえよう。安保法制懇の報告書が首相に提出され、自衛権に関する議論がかまびすしい昨今だが、たとえば日本近海でアメリカの艦船が攻撃を受ければ、自衛隊はどのみち現実には防護へ行かざるを得まい。憲法九条をめぐる論争は、その意味でむなし。

この点、本書が九条ではなく、政教分離の問題を重点的に取り上げていることは、理にかなった選択であると同時に、多くのキリスト者の関心にも合致すると思われる。政教分離の原則を規定する日本国憲法二〇条三項の末尾に自民党草案が「ただし、社会的儀礼又は習俗的行為の範囲を超えないものについては、この限りでない」とのただし書を追加し、宗教上の組織への公金の支出を禁じる八九条に「第二十条第三項ただし書に規

定する場合を除き」との留保を付していることの危険性を考察した部分——公人の靖国神社参拝が「習俗的行為」として合憲とされうる——は、とりわけ示唆に富む。

民主主義、表現の自由、信教の自由、政教分離の原則——「憲法といえは憲法九条」と思われがちな風潮の中、私たちは、地味だが重要な一つ一つの問題をもっと「自分の問題」としてしっかりと考えるべきなのではないか。個人的な信仰に逃避せず、時代と格闘し、新しい公共を生み出す市民の責任を説く著者の姿に心を打たれる。

（あべ・けいすけ＝成蹊大学法学部教授）
（四六判・二〇二頁・本体一三〇〇円＋税・教文館）

ヒルダ・ミッシェル叢書 第1号

現代世界における霊的指導

「魂の同伴者」

ケネス・リーチ「著」
関澄子／関正勝「訳」



定価 2,300 円＋税

ご注文・お問い合わせは

渋谷聖公会聖ミカエル教会
〒150-0012
東京都渋谷区広尾 2-1-7
☎ 03-3409-2079
FAX 03-3409-2938
shibuya.st.michael@gmail.com

発行者
日本聖公会東京教区
渋谷聖公会聖ミカエル教会
発行所
聖公会出版

靈的指導 (spiritual direction) の重要さと意義

ケネス・リーチ著
関 澄子、関 正勝訳

魂の同伴者

現代世界におけるキリスト教の靈性



窪寺俊之

ケネス・リーチは、二〇〇七年に聖公会神学院の招きで来日して特別講座を担当した英国教会の司祭である。多くの著作があるが、日本語訳では『牧者の務めとスピリチュアリティ』（竹田眞、石井智子訳、聖公会出版、二〇〇四年）、『十字架が語りかけるもの』（菊地伸二訳、聖公会出版、二〇〇五年）が出版されている。一九三五年生まれでキングス・カレッジ、ロンドンとトリニティ・カレッジ、オックスフォードで学んだ。教会の牧師をしながら、積極的に青少年問題、移住労働者の生活支援、貧困問題などに関わって、キリスト教の今日的使命を果たす道を模索しながら、伝統的遺産に行き着いた。その成果の一つがこの書物である。今日の教会がもつ一つの問題は靈的いのちの枯渇だと受け止めている。

この書物はカンタベリーの聖オーガスチン大学での聖職按手候補生に向けた講義を基にしている。聖職者が学ぶべき最も基本的事柄を明らかにしたと言える。全体は六章と補遺で構成されているが、章立てを見ると著者の意図が推察できる。1章・

祈りは本来神の行為である。祈りは許しである。祈りは神に向って自己を越えることである。祈りは自己の内面に出会うことである。祈りは優しさを備えることである。祈りは全身的活動である（二七六―二八八頁）などと語っている。そのような祈りに導くのが靈的指導であるという。「靈的指導者に求められることはアイデンティティーの発見を助け、さらに自己に死に、もう一つの中心、すなわち自己存在の最も深い中心である神において生きられるようにと信徒を助けることである」という。（三〇六頁）

以上見た所では、靈的生活が非常に個人的な色彩をもつように見えるが、リーチは、祈りが単なる個人的生活に収斂しすぎると世界との断絶を生みだし靈的生活が閉鎖的になってしまふと警告する。信仰生活の個人的側面を強調しすぎることへの戒めの例として、カウンセリング、精神治療の問題を扱っている。カウンセリングや精神治療法はバラバラにされた現代人の人格の自己洞察、統合化、適応することに貢献しているという（二五〇―二六八頁）。しかし、リーチはもしもカウンセリングや精神療法、更には教会自体が過度に個人の社会適応を追求す

靈性と今日の潮流、2章・キリスト教の伝統における靈的指導、3章・靈的指導とカウンセリングと治療、4章・祈りとキリスト教の靈的伝統、5章・祈りの生活の実践、6章・靈的指導の預言者の理解、補遺として靈的指導と和解のサクラメントである。

リーチが訴えていることは、靈的指導 (spiritual direction) の重要さと意義である。今日の教会は靈的指導を強く必要としているとして、キリスト教会の靈的遺産から学ぶことを語り、初期キリスト教の砂漠に出て行った隠者たちの靈性や、東方正教会の靈性、更には今日のペンテコステ派の靈性にまで触れて健全な靈性の姿を提示している。アレクサンドリアのクレメンスの「不信心から信心へ、信心から知識へ、知識から愛」を引用し、また、オリゲネスの「浄めと知識と愛」に触れて、愛に向う靈性こそ大切だと語っている（二二七―二五〇頁）。

その靈性に至る道として、5章では祈りの生活を勧める。この著書の一つの結論がここにある。祈りは人格の統合である。

るのであったら、「社会的、政治的次元への意識の欠如をもたらし、不正を永続させてしまふ」（一六四頁）と言い切っている。そして、靈的指導の目的は危機への介入ではなく、「神に向う、そして神のうちにおける行動」である（二五四頁）と語る。

リーチは今日の教会の存亡を靈性の復興に期待している。今日、戦争、貧困、差別が人々のいのちを脅かしている。多くの苦難や課題、傷つき倒れる人々を助け、希望の教会の形成に、バランスの取れた靈性の必要性を語っている。

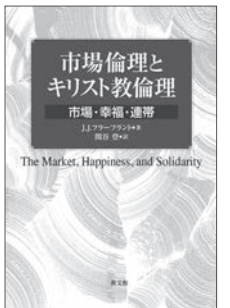
この翻訳が、牧師、信徒、カウンセラー、ソーシャルワーカー、精神科医に読まれ、キリスト教の伝統に流れる靈的宝庫に触れられることを願います。多くの方に薦めたい書物です。この大著を翻訳された関澄子氏と関正勝氏のご労に心から感謝を表したいと思います。

（くぼでら・としゆき）聖学院大学大学院教授

（四六判・四二四頁・本体三〇〇円＋税・発行者 渋谷聖公会聖ミカエル教会・発行所 聖公会出版）

市場経済の倫理的課題を聖書の文脈から読み解く
J・J・フラー・フランク著
関谷 登記

市場倫理とキリスト教倫理 市場・幸福・連帯



久世 了

訳者によれば、著者J・J・フラー・フランクはオランダのテイルブルフ大学の経済学・経営学部教授である経済学者、神学者であり、「本書は、政治経済学のフロンティアとして位置づけられている」。

ここの政治経済学とは、英語で言えばPolitical Economyなのだが、これは広義の経済学の中でEconomicsとは区別される学問領域である。そもそも市場経済についての学問としての経済学が成立したのはアダム・スミスの『諸国民の富』（一七七六年）以来のことだが、そのスミスは道徳哲学の大学教授であった。当時、イギリスで市民革命によって公認されることになった市民的自由権の一つとしての私有財産権を基礎として、商品を自由に製造・販売して利益を得ようとする営みが活発になって行きつつあったが、この事態をどう評価するかは、道徳哲学上の大問題だった。というのは、市場での売買を通じて私的な利益を上げる営みを、利己心を動機としているがゆえに「卑しい」ものだとする考えがまだ根強く残っていたからである。これに対してスミスは、その利己的な活動が「見え

ざる手の働き」によって社会全体に「富の増進」という形で大きな善をもたらすことを立証して市場経済を肯定的にとらえるべきであることを主張したのであった。こうしたスミス流の市場経済についての学問が、政策的論議としての性格を持つゆえにPolitical Economyと呼ばれたのであった。ところがその後、スミスが試みた市場経済のメカニズムの解明という部分を数量的に厳密に追求しようとする研究が重ねられ、それがEconomicsと呼ばれて、今では経済学と言えはEconomicsがすべてであるかのように思う人が少なくない状態になってしまっている。

しかし、われわれの生活の現実を考えれば、環境破壊など明らかに市場経済が生み出している様々な重要問題があり、したがって市場経済そのものが依然として道徳哲学（現代風に言えば社会倫理）上の大きな課題であり続けているのだが、しかしそのことはEconomicsではほとんど視野の外に置かれてしまっている。そこに現代に相応しいPolitical Economyが求められる理由があるのである。

このように見てくると、「政治経済学のフロンティア」として位置づけられている「本書の存在意義がきわめて大きなものであることが理解されよう。著者フラー・フランクは市民的自由の基礎としての私有財産権が必然的に生み出した市場経済そのものを根本的には肯定しつつ、大きく三つの視角から、旧・新約聖書の経済生活にかかわりのある教えを踏まえて、現代の市場経済の肯定されるべきところ、否定されるべきところを詳細に論ずる。

第一には、経済的成果。Economicsの楽観的な主張に疑問を呈しつつ、雇用の確保という面から市場経済の成長には肯定的な判断を示す。この点では著者がケインズ経済学に親近感を抱いていることが感じられる。第二に正義という視点から、とくに貧富の格差について、完全平等主義はとらないが野放しの市場経済が生み出す大きな格差について、とくに国際取引の自由化は、国家間の格差を固定化あるいは更なる拡大をもたらす

危険があることが指摘される。（この点はいま日本で問題のTPPについての判断に参考になろう。）第三の視角は「徳」すなわち市場経済に生きる人間のモラルの問題であり、あまりに厳しい市場競争が当事者に賄賂、虚偽広告といった不正への強い誘因をもたらし、社会全体を腐敗・墮落へと追いやる危険が少なくないことが警告される。

そこで現実の市場経済に対して何らかの規制、介入が必要とされるのだが、それをもつばら「大きな政府」に求めるのではなく、社会的な「対抗力」に期待するべきであることが示唆される。このように著作が、キリスト教系大学のすべての学生に対する教養教育の教科書または重要参考文献として広く活用されることを強く望みたい。

（くぜ・さとる＝明治学院大学名誉教授）
（A5判・二七四頁・本体二六〇〇円＋税・教文館）

ペットも天国へ行けるの？



井上彰三 著
退職後ルーテル学院大学 同志社大学大学院（神学修士）、立教大学大学院でキリスト教神学（霊儀）について学ぶ。元NCC宗教研究所研究員。
被造物は神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいると語るパウロ。これまでの人間中心主義のキリスト教を根本から問い直し、愛する動物たちのいのちと死、死後の世界までを聖書から丁寧に直す反響の書！ 3・11以降をも視野に入れた心あたたまるわかりやすい心優しい書。ヨベル新書023 ●新書判・二三二頁・九〇〇円（税別）

ヨベルの近刊のご案内
渡辺善太著作選
【全13巻別巻1 第6回記念】
① 聖書の説教とは？
書下し巻頭エッセイ：「なぜ『聖書の説教とは？』は必読すべき書物なのか」
加藤常昭師
ヨベル新書 024 [7/25 発売予定]
新書判・320頁・1,800円（税別）
株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

キリスト教世界布教と西洋音楽普及の先駆的研究
皆川達夫著

洋楽渡来考 再論
箏とキリシタンとの出会い



樋口隆一

西洋音楽史学、特に中世ルネサンス音楽研究の泰斗として知られる皆川達夫氏が、キリシタン音楽と出会われたのは一九七五年というから、じつに四十年ほども前のことだ。合唱団の指導のために長崎に行かれたとき、隠れキリシタンの島として知られる生月島に案内され、彼らが唱える「歌オラシヨ」に出会われたという。皆川氏のすばらしいのは、その時、感動と同時に、その背後に横たわる豊かな研究の可能性を直感されたところにある。初期のフルブライト奨学生としてニューヨーク大学で研究生活を送られた皆川氏は、比較音楽学の創始者クルト・ザックス（一八八一〜一九五九）の指導を受けられ、音楽に対するグローバルな視点を教えられていた。

皆川氏のキリシタン音楽研究はその後大いなる発展を遂げ、その集大成が芸術学博士請求論文として明治学院大学に提出された『洋楽渡来考——キリシタン音楽の栄光と挫折』（日本キリスト教団出版局、二〇〇四年）となった。それから十年、この『再論』が出版されたわけである。その内容は以下の三点からなっている。一、旧著出版後にオックスフォードで発見され

たマドリード版の『サカラメンタ提要』の検討。二、『聖母マリアの連祷』歌唱のためのより妥当な旋律の提示。三、日本伝統音楽の代表的名曲である箏曲《六段》が、ラテン語聖歌《クレド》の深い影響のもとに成立したとする試論。

なかでも興味深いのは、三にある《六段》と《クレド》の比較である。もともと《六段》という曲は、日本伝統音楽としては例外的に、非常に器楽的性格が強い音楽である。題名からもわかるように六部分からなる変奏曲とも解釈できる。だからかねてから、西洋音楽、とりわけスペインのデイフェレンシアスと呼ばれる鍵盤楽器の変奏曲の影響を受けたのではないかという推論がなされていた。ところが皆川氏は、各段が五二拍子（二〇六拍）からなる《六段》を三つ折りにして、二部分からなる《クレド》と重ね合わせると、長さだけでなく内容的にも驚くほど重なり合うという事実を発見されたのである。『再論』のなかでも、この点は譜例を用いて説明されているが、その妥当性を実感するには、実際に両者の演奏を耳で聞くことが大切だ。そこで本書には付録として、二〇一二年七月にローマの

オラツィオ・デル・カラヴィータ礼拝堂で行われた野坂操壽氏の箏と皆川達夫指揮中世音楽合唱団による演奏を収録したDVDが付いている。なかでも《六段》と《クレド》の同時演奏は、それを聴くことによって、両者の呼応関係を実感させてくれる。評者は、皆川氏が日本音楽学会の例会で初めてこの比較演奏を披露されたとき、たまたま司会をさせて頂き、不思議な感動を味わうことができた。そしてこの研究のグローバルな重要性を認識し、自分が日本代表理事（現在は副会長）をしている国際音楽学会理事會に皆川氏を名誉会員候補として推挙することをお願いした。すると嬉しいことに、長年にわたりわが国に西洋の中世ルネサンス音楽を紹介し、さらに八十歳代後半にして、このような斬新な研究を続けておられる皆川氏のような方こそ、われわれの学会の名誉会員にふさわしいということになった。二〇一二年七月、国際音楽学会の世界大会は、ローマのパルコ・デラ・ムジカで開催されたが、総会の席上で、評者は名誉

会員としての皆川氏への祝辞を述べさせて頂いた。そして総会后、野坂氏の箏、皆川氏指揮中世音楽合唱団の特別演奏が行われた。DVDに収められた演奏は、それに先だってローマの由緒ある教会で収録されたものである。

十六・十七世紀にスペインやポルトガルの宣教師たちによって行われたキリスト教の布教活動は、その結果として西洋音楽の世界的な普及をもたらした。近年、教皇庁は、その重要性に気づき、私たち国際音楽学会に、世界中に残された布教時代の音楽遺産の総合的研究を呼びかけられた。事実、中南米やアジア各地の図書館には、未知の音楽資料がまだたくさん眠っている。本書は、そうした意味でもまことに今日的な意味がある。

（ひぐち・りゅういち＝明治学院大学教授、国際音楽学会副会長）
（A5判・一六〇頁＋DVD・本体六四〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

キリスト新聞社の本

Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



好評発売中!

▼神学者として注目を浴びる著者による神学的随想集
落ち穂ひろいの旅支度 芳賀力◎著

本書は「思索の小さな旅（キリスト新聞社刊品）」に続く随想集で、旅に寄せての雑感を書き綴ったものである。神学的紀行文を書くにいつかは筆者のような著者にとって、収穫のおぼれに与るような落ち穂ひろいの趣きがあります。とは言ってもいつも限られた日程なので、学会に向いたついでに強行軍を敢行することもたびたびでした。あまり堅いものはかりでは食傷気味になるので、自分のブログに気軽に記したものを少し加えました。（本書あとがきより）

■四六判 190頁 1600円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (価格税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

復活信仰の雄弁な証言
宮田光雄著

私の聖書物語
イースター黙想



宮田光雄 イースター黙想

笠原義久

さる四月二十六日、本書の版元である新教出版社の創立七〇周年を記念する連続神学講演会の第一回目を聴く機会を与えられた。講師は宮田光雄先生。演題は「バルメン宣言の政治学——バルメン宣言八〇周年を覚えて」。政治思想史、とりわけドイツの近・現代史研究を専門とし、さらにナチ研究との関連からドイツ教会闘争の研究をライフワークとしてこられた先生内に燃えるような情熱を秘めながら、即事的（ザッハリヒ）で論旨明快な語り口とそこから聞こえてくる確かな基調音は、四十五年前の私の学生時代の先生を彷彿させるに十分なものであった。

本書は、そのような宮田先生のキリスト者としての屋台骨である復活信仰が生きて働いていることを雄弁に証言する五編のエッセイないし小論と、「私の聖書物語」と題した小さな自伝とから構成されている。それぞれについて、その内容を簡潔に紹介する。

①「ボンヘッファーと婚約者マリアー」 ボンヘッファーとその婚約者マリアーとの間で交わされた往復書簡集が、どのよ

うにして陽の目を見るにいたったか——死の床で、キリスト復活を単純に信じる信仰の重要性をボンヘッファーに強く訴えた若き日の自らを想起したマリアーと、処刑の直前「これが最後です——（しかし）私にとっては、生命の始まりです」と認められたボンヘッファー。そこにはパウロの復活証言（Iコリ一五章）が共鳴していることが説得的に語られる。

②「『マタイ受難曲』とカール・バルト」 バルトは、「マタイ受難曲」の純粹に音楽的な偉大さを認めつつも、福音書のバツハの「解釈」については厳しすぎる批判をしている。そのことに違和感を覚えた著者は、『マタイ受難曲』において《復活》が語られている箇所を、多くの文献にあたり、音楽的・文学的（詩的）に究明している。著者の音楽への造詣の深さには並々ならぬものがある。

③「プレッツェンゼーの『死の舞踏』」 プレッツェンゼーとは、ナチ時代に政治的・宗教的・人道的動機から反ナチ抵抗運動に加わった人々が処刑された場所。そこに記念として建つ礼拝堂に、フルトリツカの有名な《死の舞踏》の連作板絵がある。明

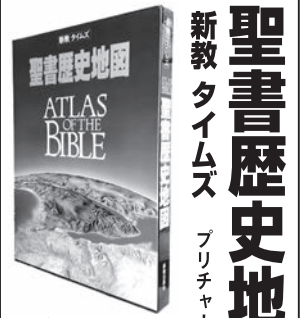
らかに無神論者であるフルトリツカは、キリストの復活像を徹底して《非・聖別化》して、すなわち他者と同じ死の候補者として他者のために《パンを裂く》一人の方として描いているが、著者はそこにボンヘッファー的《非宗教性》の神学に通底する現代的復活像を見いだしている。

④「復活者キリスト——シヤガールの『緑の十字架』」 本書の中心的論考で、著者のシヤガール論が手に取るように理解できる。ここではチューリッヒ聖母教会の『緑の十字架』に焦点が当てられる。著者は、この『緑の十字架』にはそれまでのシヤガールの十字架像とはまったく異なる新しいイエス理解が認められる、と言う。イエスの身体は、釘付けされているというより浮動しており、扱げられた両手は祝福を与えているように見える。そしてイエスの頭上には勝利の光輪が描かれ、「見まがう余地なく復活者を」、神の救済史の実現者・完成者を認めることができる、と結論づける。そして、こうした絵画それ自

⑤「使徒パウロによる『最古の復活証言』」 最新の聖書学の業績をも踏まえつつ、キリストの復活は歴史的方法を用いて具体的に対象化し認識することはできないという聖書の啓示が保持している《秘義》性をしっかりと担保して、聖書の復活使信の核心を鮮やかに描き出している。また復活信仰のもっている政治的射程への言及には励ましを与えられる。

一読を心からお勧めしたい。
(かさはら・よしひさ) 日本基督教団信濃町教会牧師
(B6変形判・二二〇頁・本体一八〇〇円+税・新教出版社)

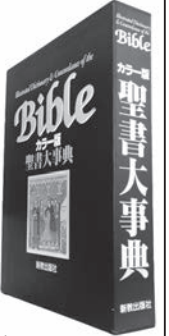
新教出版社



聖書歴史地図

新教タイムズ プリチャード編 日本語版監修 荒井章三 / 山内一郎 他

B4判・272頁
本体26214円
壮大で立体的なカラー地図と図版600点に詳細な聖書時代史を配し、聖書学・考古学・オリエンタル学・言語学の総力を結集した画期的成果。学校、教会に必携。



菊倍判・1100頁
本体39806円

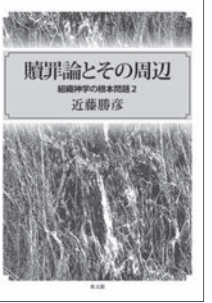
カラー版 聖書大事典

4千以上の聖書用語を71名の専門家が的確に解説。総カラー頁。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
Email: eigyo@shinkyo-pb.com

教会の形成と伝道の支えとなる神学
近藤勝彦

贖罪論とその周辺 組織神学の根本問題2



倉松 功

本書は、著者の既刊『啓示と三位一体——組織神学の根本問題』（教文館、二〇〇七年）の続編で、著者の教義学第二巻、組織神学の根本問題2となっている。

「はじめに」において、贖罪論の主題は、イエス・キリストの人格とその言葉、業、とりわけ十字架と復活の出来事における神の働きで、この神の救済行為に対する信仰と認識を深くすることが決定的に重要である、と述べている。そして贖罪論と救済論、和解論との関係や相違に言及している。

本論では、イエス・キリストによる贖罪を中心に救いの神学が、現代の国内外の神学をふくめ、古代から現代にいたる贖罪論史が詳細に語られる。そこでは、今日の教会形成と伝道の支えとなる神学が展開される。そこで述べられる著者の神学的立場は、福音主義神学の主要な流れに沿うものである。改めて東京神学大学の神学的意味と責任を教えられ、示される。神学に携わる方々はもちろん信仰を支える神学を求める人々に広く本書を推薦したい。以下において、本書の主要項目とそれについての若干の評者のコメントを記す。

「方」でしかない。それゆえ当該人物ごとに訳し直されなければならない。このキリスト論の相違が、ルターにおいては宗教改革の早い段階（一五二一年）から神性の贖罪の死が語られ、やがて聖餐における現臨・共在説が説かれるに至ったのである。それに対して、カルヴァンでは「物素（しるし）」と事柄の区別「が明らかにされ「天のキリストのからだの現臨」は語られないことに関係していくのである（一）内は評者の附記）。そのように、ローマ書講義以来ルターが用いた属性の共有を中心に、宗教改革者たちの神学の諸問題に言及した著者の問題提起を、評者として特に注目した次第である。第二部の最後の第六章は植村正久の贖罪論を論じ、植村がキリストにおける両性の統一から神の苦痛、神の死に言及したことに現代神学との関係を指摘している。高倉の贖罪論は基本的には植村の線と見ている。

第三部「贖罪論の周辺」第一章は「律法と福音」で、パウロ

本書は、第一部「贖罪論の再考」、第二部「贖罪論史の再検討」、第三部「贖罪論の周辺」、の三部からなる。

第一部で注目すべきは、第一章の3「贖罪論と伝道」である。著者は、神の贖罪行為が御子の犠牲を惜しまなかった神の愛と、御子の死を通しての神の義という愛と義の深刻な理解を伴って伝道される必要を強調している。その好例として、十九世紀の「伝道の神学者」M・ケーラーをとりあげ、さらにW・パネンベルクがこの点について、M・ケーラーとバルトを比較して、ケーラーがより正しかったと評したことも紹介している。

第二部ではアタナシオスとアンセルムス、古代と中世の贖罪論に次いで、宗教改革者ルター、カルヴァンの贖罪論をからのキリスト論をからめて検討している。ルターのキリスト論における人性と神性の共有は、ツヴィングリにおいては「交替」（アロイオーシス）となり、カルヴァンでは「人性と神性の区別」の強調となっていた。（その交替や区別は、中世のカトリック以来継承され、今日に至っている。邦語では全く無差別に「属性の交流」と訳されているが実際は「神学的表現方法、仕

とルターの相違に言及し、キリストにおける律法の成就是法的意志を持った神の永遠の意志決定の啓示と著者は解している。

第二章「和解と救済」ではモルトマンの「義認論の一面性」を批判し、和解の永続性と使徒的伝道による救済の現在化を論じパネンベルクによるM・ケーラーに注目している。第三章は洗礼、第四章は聖餐論とサクラメント論となっている。聖餐論では、聖餐はそこにおけるキリストの現臨のもとでのキリストとの出会いの場であることを認識しなければならない、と主張している。それはキリストを物素の中に限定するのでも、天上のキリストへと志向するのでもない。またフォーサイスのいう教会の行為の中であるが、それはキリストの行為の強化であり、物素からの乖離ではない（第五章）と述べている。

（くらまつ・いさお 東北学院大学名誉教授）
（A5判・三七四頁・本体五五〇〇円＋税・教文館）

聖公会出版

——新刊案内——

対照・太宰治と聖書

編著 ● 鈴木範久・田中良彦

本書は愛読者の絶えない太宰の作品と聖書についての本格的な資料。キリスト教関係者のみならず、近代日本文学に関心がある者にとって垂涎の著作。



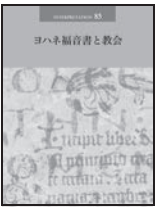
（A5判 本体定価3,000円）

ヨハネ福音書と教会

日本版インタープリテイション85号

総合監修 ● 月本昭男・大貫隆・西原康太

ヨハネ福音書は「教会の書」と呼ばれる。それは教会のあり方、個人の信仰のあり方を問いつけているからである。本号は改めてヨハネ福音書を読み直すときのよい手引きとなるはずである。



（A5判 本体定価2,000円）

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

既刊案内 (2014年4月～5月) (定価は本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
加藤 常昭 編	主が、新しい歌を — 加藤さゆり説教集	四六	368	1,500	教 文 館	4/10
佐々木 勝彦	共 感 す る 神 — 非暴力と平和を求めて	四六	312	1,900	〃	4/15
黒 木 安 信	恵み深い主に感謝せよ — 詩編に聞く Ⅲ	B 6	304	2,000	〃	4/20
G.W.レイスロップ著 平岡 仁子 編 訳	二 十 一 世 紀 の 礼 拝 — 文化との出会い	四六	128	1,500	〃	4/20
ジェイムズ・H.コーン著 梶 原 壽 訳	十 字 架 と リ ン チ の 木	A 5	306	3,800	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	4/25
村 上 伸	ヨハネの黙示録を読もう	四六	208	1,800	〃	4/25
宮 田 光 雄	私 の 聖 書 物 語 — イースター黙想	B6変	220	1,800	新 教 出 版 社	4/20
スティーヴ・フォートニス著 浜 島 敏 訳	神さまはマルチリンガル	四六	316	2,200	キリスト新聞社	4/25
藤 原 孝 行	聖書に基づくイエス様の受難と復活 — 埋葬と復活・昇天と再臨	四六	252	1,500	ヨ ベ ル	4/1
中 村 吉 基	キリストは私たちのただ中に — 都心の小さな教会で語られた礼拝メッセージ	四六	128	1,200	〃	4/4
スタンリー・ハワーワス著 東方 敬信 監 訳	大 学 の あ り 方 — 諸学の知と神の知 青山学院大学総合研究所叢書	A 5	384	3,500	〃	4/15
賀 川 豊 彦	復 刻 版 小 説 キ リ ス ト	四六	544	3,000	ミ ル ト ス	4/1
及 川 信	天 地 創 造 物 語 — 説教と黙想	四六	294	1,800	教 文 館	5/15
近 藤 勝 彦	人 を 生 か す 神 の 息 — 聖書から聞く現代へのメッセージ	B 6	234	1,900	〃	5/20
シュヴェンクフェルトほか著 中井 章子 ほか 訳	十 六 世 紀 の 神 秘 思 想 — キリスト教神秘主義著作集12	A 5	628	7,900	〃	5/20
アブイズ・S.アティーヤ著 村 山 盛 忠 訳	東 方 キ リ ス ト 教 の 歴 史	A 5	682	8,000	〃	5/30
W.H.ウイリモン著 上 田 好 春 訳	異 質 な 言 葉 の 世 界 — 洗礼を受けた人にとっての説教	四六	232	2,200	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	5/20
絹 川 久 子	沈 黙 の 声 を 聴 く — マルコ福音書から	四六	262	2,500	〃	5/20
飯 靖 子、 志 村 拓 生 演 奏	CD版 讃美歌21による礼拝用オルガン曲集 — 第3巻 詩編と頌歌	C D	36曲	1,800	〃	5/20
W.M.ヴォーリーズ著 木 村 晟 監 修	神 の 国 の 種 を 蒔 こ う — キリスト教メッセージ集	四六	336	2,000	新 教 出 版 社	5/1
横 田 耕 一	自 民 党 改 憲 草 案 を 読 む — 自民党改憲草案・日本国憲法付録	A 5	132	900	〃	5/3
宗 藤 尚 三	核 時 代 に お け る 人 間 の 責 任 — ヒロシマとアウシュビッツを心に刻むために	新書	176	1,000	ヨ ベ ル	5/1
中 島 秀 一	教 会 を 建 て 上 げ る — 牧会と説教	四六	243	1,600	〃	5/25
芳 賀 力	落 ち 穂 ひ ろ い の 旅 支 度	四六	190	1,600	キリスト新聞社	5/31

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲毛2-2-1 様ヶ丘駅前ビル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimdo.com	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kiristoku.youshoten@me@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcv:ds/uev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00540-6-82826
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00540-6-82826
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunstb/	negoya-seibunstra@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakabos	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18 三宮ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

特集 寄留民として—教会を神学する

地の果てから呼び起こされる

神の寄留者として……………金 性濟

アーミッシュの三〇〇年……………踊 共二

教会のない者の教会……………赤江達也

マイノリティとしての

「生きにくさ」の中で……………中村吉基

韓国の「小さな教会」運動……………金 鎮虎

ヘブライ語聖書における暴力・性②……………レーマー

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

私の聖書物語

宮田光雄著



イエスター黙想
ボンヘッファー、バルト、バツハ、フルトリツカ、シヤガール、そしてパウロ……。「復活」を巡って紡ぎ出される思索の跡を収めた味わい深い黙想集。巻末に著者の信仰的自伝ともいえるべき『私の聖書物語』を収録。
本体1800円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL : 03-3260-6148
Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

街中に、ジャケットを脱いだ白いワイシャツ姿のサラリーマンや、サンダル履きの若い女性を多く見かける季節になった。紫外線が気になる今日このごろである。最近知り合いの男性が、日傘を購入した。誰かへのプレゼントではなく、彼自身が使用するためだ。日傘を使用している人は圧倒的に女性が多いが、最近では男性の日傘ユーザーも増えてきているという。日傘を買ったその彼によれば、炎天下でも直射日光を防ぐだけで、ずいぶん暑さは和らぐのだとか。「なぜ男性が日傘を使つてはいけないのか」と彼は真顔で言う。

最近のドラッグストアでは、スキンケアなど男性用化粧品の種類も増えてきているし、定期的にフェイシャルエステに通う同い年のサラリーマンもわたしの周りにはいる。一見ガタイのいい、爽やか系男子、との会話の内容が「美肌」や「保湿」についてであったりもする。こんなことを書くのと抵抗を示す人もいるかもしれないが、慣れとは恐ろしいもので、二度三度と繰り返すうちに、それもまた自然であるように思えてくる。ひ

と昔前——わたしの親が青年期であった時代——ならば、あり得ない現象であるだろう。

化粧やファッションなど、外見上の装いというのは、世間で言うところの「男子／女子はこうあるべし」という既成概念に最も縛られやすい。かつては、女性のシヨートヘアは非常に奇抜なスタイルと見なされたこともあったが、今ではまったく普通である。毛髪を染めたり、ピアスをするのも同様だ。近現代の日本では、庶民の服装も短期間に大きく様変わりした。いったい「常識」とは何なのか。

一八世紀のイギリスで、男性として初めて雨傘をさしたジョン・ハンウェイという人は、通りを行く人々から指をさして笑われたと伝えられている。何が普通か、普通でないか、何が機能的か、不合理か、あるいは何を慣習・文化とみなすのか。私たちは、一時的で主観的な価値観や感覚に縛られているのかもしれない。

(竹下)

新教出版社
創立70年記念
連続神学講演会
のご案内

7月26日 佐藤 優氏 「危機を超越する福音」
——フロアマトカの受肉論に学ぶ
10月25日 荒井 猷氏 「最後のパウロ」
——使徒行伝28章30—31節に寄せて
いずれも土曜午後2時より日本基督教団 信濃町教会にて。
入場無料ですが、定員がございますので、事前にメールかファク
スでお申込をお願いします。 残席僅少



ナチが全権掌握した1933年と翌年の3
つの講義・論考。保守派の抵抗の諸相を何う
ドキュメント。
◆四六判・本体1850円

ブルトマンとナチズム
「創造の秩序」と国家社会主義
ルドルフ・ブルトマン著／深井智朗監訳

既刊 神学入門 プロテスタント神学の転換点
7月25日 ◆四六判・本体3500円
◆四六判・本体1800円
既刊 イエスの宣言 ◆四六判・本体1700円
預言者・イエス・パウロの働き 野村喬著 7月18日
唯一神教の核心的メッセージが何であったかを、聖書を丁寧に直
す。真の唯一神教の基準は何か。それはすべての人と物に対して公平
であり、差別しないという精神の保持である。
◆四六判・本体2000円
◆四六判・本体2000円



キリスト教信仰論 J・L・フロアマトカ著／佐藤優監訳
20世紀の激動期にナチズムとマルクス主義の狭間を生き抜い
たチエコの神学者が、ただひとつ書き遺した（キリスト教信
仰論。著者のいわば唯一の教義学である。鬼才佐藤優氏が傾
倒するフロアマトカの名著がここに初めて邦訳される。

人間への途上にある福音

キリスト教信仰論 J・L・フロアマトカ著／佐藤優監訳

好評の既刊・新刊
神の国の種を蒔こう
キリスト教メッセージ集
ヴォーリス著／木村晟監修

建築家、教育者、実業家、そして伝道者
として八面六臂の活躍をした著者。彼を
根底で支えた福音信仰の本質を示す70余
編の短文集。
◆四六判・本体2000円

共に生きる生活

ボンヘッファー著／森野善右衛門訳
現代キリスト教の靈性に大きな影響を及
ぼし、尽きない励ましを与え続けている
永遠の名著。訳文もサイズも、2004
年の「改訳新版」をさらに読みやすくし
たハンディ版。
◆B6変・本体1600円



全知の神が考えを改めるのはなぜか。旧約神学の深さに迫る

なぜ神は悔いるのか 旧約的神観の深層

イェルク・イェレミアス 関根清三・丸山まつ 訳
超越者でありながら、神が「思いを変える」のはなぜか。ドイツの代表的旧約学者が「悔いる神」のモチーフから、旧約聖書における人類を救おうとする神の意志に迫る。

◆A5判 上製・226頁・3,240円

イエスは「教師」としてどう働いたのか

新約聖書の教育思想

山内一郎

新約聖書を緻密に読み解き、福音書は「教師イエス」をどう描き、原始教会は信徒の形成をどう担ったかを明らかにする。教会教育を考える必読基本文献。

◆A5判 上製・330頁・3,456円



イベントのご案内

皆さまのお祈りとお支えに感謝して 『信徒の友』創刊50周年記念 **感謝礼拝・ライブ&トーク**

- 日時 2014年10月11日(土) 午後1時~3時
- 会場 日本基督教団 東梅田教会
大阪市北区野崎町9番6号
- 定員 先着240名

入場無料 ※入場整理券が必要です。



- 感謝礼拝
説教 春名康範氏 (日本基督教団 天満教会牧師)
- ライブ&トーク
講師 桃井和馬氏 (写真家、ノンフィクション作家)
陣内大蔵氏 (日本基督教団東美教会牧師)

申込方法など、詳しくはホームページをご覧ください。

Blank area for contact information or registration details.